

パスポートを使ってみたい

志村 良知

海外赴任から帰国して数年後パスポート期限が切れたので更新した。新しいパスポートは一度も使うことなく期限が来てまた更新した。ヨーロッパ駐在中は、営業職の商売道具で査証欄増ページして使いまくったのでその落差は大きい。

今の暮らしで海外に出かけるとしたら純粹に観光旅行ということになるが、その検討を全くしないわけではない。ヨーロッパ駐在時代に行ったことがなかった東欧やシシリー、それに太平洋の楽園といわれる島々のパンフレットは随分研究した。

しかし、格安パッキングツアーのスケジュールはどれも過密そうであり、行った人からバゲージダウン午前四時のこともあった、などと聞くと気持ちが萎える。かといって年齢相応ツアーはそれなりのお値段である。では個人旅行はどうか、航空券とホテルさえ事前に手配しておけばあとは現地で何とかなると思っても、昔、何もかも車に積んで出かけた気ままな旅の楽しさに勝る旅ができるかという年齢・体力・気力・経済力（駐在員と年金生活者）の落差を考えると無理だなと思ってしまう。それがどんなに楽しかったかは、そうした旅の一つに同行し、スイスで四日間一緒だった姪が、それから二十五年経っても「あの旅は、私の旅というものへの概念を変えた最高の時間」と太鼓判を押してくれている。

さらに、一〇時間を超える飛行時間、特に帰りが問題である。家内からは、昔あんなに旅をしたのは何だったのだと、半分揶揄、半分非難されるが、当人もあの飛行時間には、ある恐怖を抱いているようである。

新型コロナ以前はテロも出かけない口実になっていた。ロンドン、パリ、ブラッセル、ニース、ミュンヘン、バルセロナ、マドリッドと楽しい思い出に満ちた町で軒並みテロが起き、心配よりも悲しい気持ちになった。

そして新型コロナである。行くな、来るな、と旅そのものが無くなってしまった。あと三年、今度のパスポートを使う機会が来ることを願うの情甚だ切なり。